認知症在宅生活サポートセンターの

わたしたちのお仕事紹介します！

「高齢者向け・お役立ち電話帳《生活の「困った」をお手伝い》」を作りました

▲表紙／▼内容

ご高齢の人の「困りごと」に対して、世田谷区で利用できる介護保険以外のサービスをピックアップして掲載しています。
「家事の困った」「見守り・道迷い・防犯の困った」「居場所・交流の困った」「お金の管理・手続きの困った」という4つの項目に分け、それぞれの「困ったこと」に対して、どのようなサービスがあるのか一目でわかるようになっています。
介護保険の申請をしていない人も利用できるサービスがあります。
ぜひ、一度手にとってみてください！

このパンフレットのアピールポイント

見やすさ・読みやすさにこだわりました！
どこに連絡していいのかすぐに分かるよう、電話番号を大きく表記するようにしました。
コラムには、警察署へ直接インタビューした防犯情報も掲載しています。

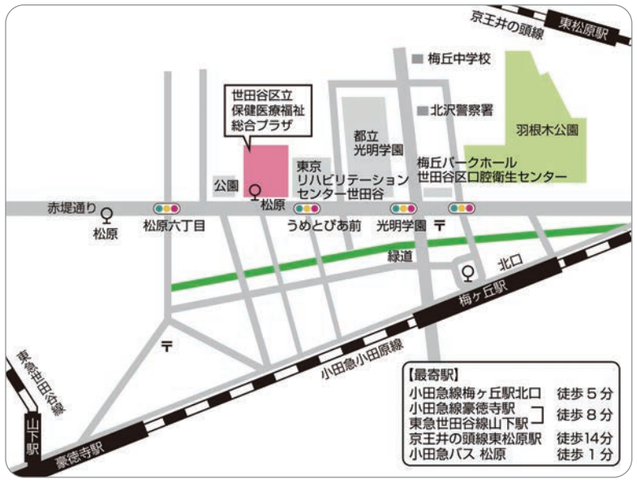
（制作担当スタッフより）

高齢者向け・お役立ち電話帳
《生活の「困った」をお手伝い》
ホームページからダウンロードができます ▶▶

世田谷区認知症在宅生活サポートセンター
（運営委託法人：医療法人社団プラタナス／桜新町アーバンクリニック）

〒156-0043　東京都世田谷区松原6-37-10
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ1階

電話 03-6379-4315
FAX 03-6379-4316



様々な情報を発信中

ホームページに
随時掲載しています！

https://setagaya-ninsapo.jp/

令和2年10月発行

世田谷区

にんさぽだより

第３号

世田谷区認知症在宅生活サポートセンター

特集！

「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」が制定されました！

条例とは？

地方公共団体（都道府県や区市町村など）の議会の議決によって、自主的に制定する法規のことをいい、その区市町村の区域内で効力を有するものです。

にんさぽだよりとは？

世田谷区が開設した世田谷区認知症在宅生活サポートセンターの機関誌です。
認知症の人、関わっている方々を応援し、
気持ちの支えになればという想いで作っております。

音声コード

特集

「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」が制定されました！

世田谷区では、子どもから大人まで全ての区民が認知症に深い関心を持ち、認知症になってからも住み慣れた地域で、希望を持って自分らしく暮らせる社会を実現するために、新たな条例が令和2年10月1日に制定されました。

条例検討委員会委員長の大熊由紀子先生にインタビューを行いました！

（国際医療福祉大学大学院教授）

条例の検討に当たって、大切にしたことはどのようなことでしょうか？

この条例のねらいは、認知症について「自分には無縁のかわいそうな人たちの問題」と考えるのではなく、「認知症になる可能性がある、私たちみんなの課題」に変えていくことです。「認知症になると、会話もできないのでは？」と思う方も多いかもしれませんが、そんなことはありません。現に、条例の検討委員会には、認知症当事者をお迎えしています。流通大手の会社を任されていた男性、美術の先生だった女性、子どもたちに絵本の読み聞かせをしていた女性の三名から、自身の経験を踏まえた当事者でなければ気付けない意見をいただきました。条例を制定する過程で、誰もが認知症になりうるという前提で、みんなで考えることを大切にしました。

条例の「希望」には、どんな思いが込められているのでしょうか？

認知症の人が幸せになるために必要なのは〈希望－HOPE〉であるということが今、国際的に証明されています。日本でも「一足先に認知症になった私たちからすべての人たちへ」という「認知症とともに生きる希望宣言」が発表されるなど、認知症になっても希望を持って地域で暮らそうという人々が増えています。世田谷区も希望を持って生きていくことができるよう、条例にも〈希望〉の言葉を使いました。認知症になったら何を希望するか、日頃から一人一人が考え、実現するための「私の希望ファイル」というプロジェクトも進めています。

条例の制定によって、区民等がどのように変わることを期待しますか？

認知症の人がそれぞれの希望を持って生きるために大切なのは「生活」です。日本では、認知症になった人を精神病院に入院させるという国際的に奇異の目でみられる現実があります。使い慣れた道具や、好みの服など自分らしい暮らしがある自宅から、「生活」のない病院に移動することは症状の悪化につながります。まちも同じで、行きつけのお店や、通い慣れたスーパーなど、見慣れた風景の中で安心して暮らしつづけられることが重要です。お店の店員が「あの方、一五〇円のものを買うのにいつも一万円を出す。認知症かな。」とそっと配慮をしたり、行き先がわからずに困っている人のことを何気なしに支えたりできるまちになるといいなと思います。

「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」は、こちらからお読みいただけます！

▶▶

世田谷区へのインタビュー

世田谷区 高齢福祉部
介護予防・地域支援課
佐久間聡 課長

ご本人やご家族含め、区民の皆様と一緒に作り上げた条例です。認知症とともに生きる希望を持って自分らしく暮らせるまち、世田谷を目指し、今後も施策に取り組んでまいります。

認知症カフェに行こう！

認知症カフェ さんこみゅ。

※ 10月現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止中です。

認知症カフェ「さんこみゅ。」は、田辺薬局が主催するカフェです。開催場所は調剤薬局の待合室。
今回、主催の河田さんにお話を伺ってきました！

Q 認知症カフェを始めたきっかけはなんですか？

お家に大量の緩下剤や睡眠薬が残っていて、数十件もの医療機関にかかり、その度にあちこちの薬局にお薬をもらいに行っていた軽度認知症の方がいました。この方は、もしかしたら“対等に扱ってもらえる居場所”が欲しかったのかなと思ったのが、認知症カフェを始めようと思った最初のきっかけでした。

Q 実際に認知症カフェを開催してみていかがですか？

たくさんの方に参加してもらうにはどうするか悩みましたが、最近、「来月も楽しみだね」と言ってもらえることが増えてきて、ちょっとしたコミュニティが生まれている感じがしています。参加者の皆さんの認知症に対する知識が深まり、皆さんが発信していってくださるようになればと考えています。

認知症カフェ情報

会　場	太子堂 4-23-12 井上ビル2F 田辺薬局 三軒茶屋店
連絡先	03-5779-8568
日　時	月１回（第３木曜日） 午後１時 ～２時
参加費	無料

インタビューを終えて

主催の河田さんの熱い思いが伝わり、お話を伺っていてとても感動しました。
カフェが終わった後もひとりひとりに声をかけていらっしゃる姿を見て、馴染みの関係はこうやって作られていくのだなと感じました。

（認知症在宅生活サポートセンター）
作業療法士 奥村

世田谷区 認知症カフェハンドブック

あんしんすこやかセンター、図書館などで配布中！
ホームページからもダウンロードが可能です。

▶▶

メッセージリレー 支え合う地域の仲間たちから、認知症の人や家族へ

烏山あんしんすこやかセンター
秋友さん

上祖師谷あんしんすこやかセンター
小野さん

上北沢あんしんすこやかセンター
仲井眞さん

烏山地域のあんしんすこやかセンターのみなさん

世田谷区内の、支え合う地域の仲間たちから、認知症の人や家族へのメッセージを一冊のスケッチブックでリレーしていくコーナーです。
あなたのまちの仲間も登場します。